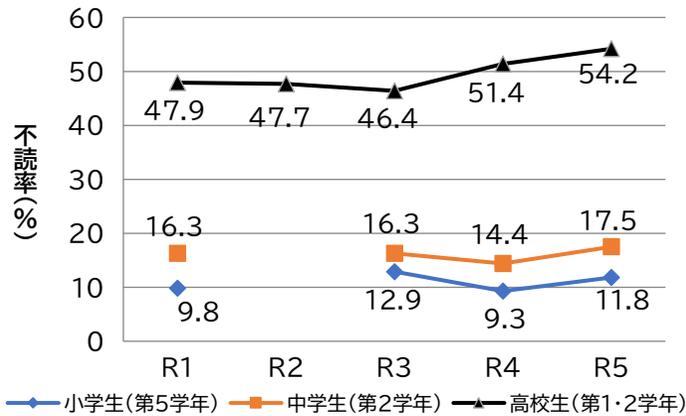


# 広島県子供の読書活動推進計画(第五次)【概要】

## 第四次計画期間における課題等について

### 不読率の推移(R1~R5)



### 【課題等】

- 家庭での読み聞かせなど、乳幼児期において絵本に触れる経験が不足している。
- スマートフォンでのメールやSNS、動画視聴の時間が増加している。
- 研修が校内全体に広がっていない。
- 学校図書館や公立図書館が活用されていない。
- 読みたい本を読むことができる読書環境が整っていない。

### 【分析等】

- 小学校入学前に読み聞かせをもらった子供は、小学校5年生時に読書に関する興味が約5ポイント高い。
- 電子図書館サービスを使いやすいと感じ、これからも使ってみようという生徒が多い。
- 不読率の低い学校ほど、学校経営計画に位置付け、学校評価によりPDCAサイクルを回しながら、読書指導を行っている。
- 探究的な学びが充実している学校は、本や資料を活用して調べている児童生徒の割合が高い。
- 公立図書館と連携している学校の児童生徒は、本を読むことが好きで、不読率が低い。

### 【重点】

- 絵本に触れる機会の充実
- 電子書籍の充実
- 組織的・計画的な読書指導の充実
- 図書館を活用した学びの充実
- 公立図書館との連携の促進

## 第五次計画について

【計画期間】 令和7年からおおむね5年間

【基本理念】 生涯にわたって読書に親しみ、人生をより深く豊かに生きようとする人づくり

【5年後の目指す姿】

○子供が読書を楽しみ、主体的に本を読んでいる。(本に親しむ)

- ・週に1回以上読み聞かせをしている保護者の割合の増加
- ・ほぼ毎日読み聞かせを実施している園・所の割合の増加
- ・「本を読むのが好きです」(小・中)、「本を読むことには、意義があると思います」(高)という質問に対して、肯定的に回答する子供の割合の増加
- ・「1か月の間に、本を何冊くらい読みましたか」という質問に対して「読んでいない」と回答する子供の割合の減少(不読率の低減)

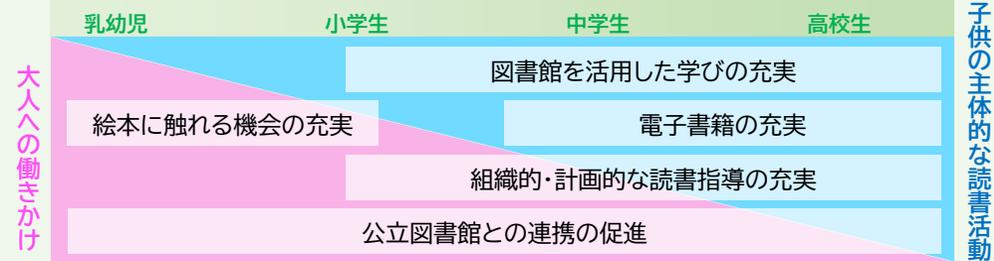
○子供が様々な選択肢の中から、目的に応じて本や資料を選び、活用している。(目的に応じて読む)

- ・「興味・関心があることや学習に関することを、本や資料を活用して調べている」という質問に対して、肯定的に回答する子供の割合の増加

○子供が読書を通じて、考えを広げたり自己の生き方に生かしたりしている。(本から学び考えを深める)

- ・「本を読んで、知りたいことが分かったり、自分の考えを広げたりすることがある。」(小)、「本を読んで、自分の生き方や社会との関わり方について考えることがある。」(中・高)という質問に対して、肯定的に回答する子供の割合の増加

### 【展開イメージ】



### 【施策体系】

柱	読書の姿	推進策
柱1	本に親しむ(楽しむ読書)	家庭・地域における読書活動の推進 乳幼児期における読書活動の推進 児童生徒に対する読書活動の推進
	目的に応じて読む(見つける読書)	学校図書館等を活用した学習の推進 日常生活等で本や資料を選び活用する取組の推進
	本から学び考えを深める(考える読書)	本や資料等を基に考えをもつ学習の推進 日常の読書活動を通じて考えをもつ取組の推進
環境整備	人的整備の充実	多様な人々の参画 多様な人材の育成
	物的整備の充実	魅力的な読書環境づくり 関係機関連携の強化

本文はこちらから閲覧できます。

